



宮城県漁業士会報

第19号

発行 令和2年3月

宮城県漁業士会 仙台市青葉区本町3丁目8-1(宮城県水産林政部水産業振興課内) TEL022-211-2935 FAX022-211-2939

海人

かいと

写真：ワカメのボイル作業



ごあいさつ

宮城県漁業士会 会長 西條 覚

会員の皆様におかれましては、日頃から
復旧・復興に励まれていることと存じます。
また、本会の活動にご理解とご協力を頂い
ていることに対し厚くお礼申し上げます。

本会は平成二年度に結成されて以来、令和元年度で二十九年目
を迎えることとなります。

震災から九年が経過し、生産基盤の復旧整備が進み、生産も本
格化してきました。これに併せて、震災以降中止していた県外視察
を再開するなど、漁業士会の活動についても充実を図っています。

さて、令和元年を振り返りますと、サケやサンマ等の冷水性魚
種の不漁や、相次ぐ台風による養殖生産物への被害等、地球温暖
化等による気候変動の影響を大きく受けた一年でありました。ま
た、広範囲にわたる磯焼けや貝毒の長期化、海洋プラスチック問
題等、漁業を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いております。

本会と致しましては、こうした状況に対峙し、三陸の豊かな漁
場を最大限活用しながら、山積する漁村地域の課題解決を目指
し、今後とも漁業士会活動を活発化させてまいります。また、漁
業士一人一人におかれましては、自らの知識と技術を活かしなが
ら復興に向けた役割を果たしていただくとともに、次代を担う若
い世代への指導とおして、漁村地域を活性化していくためにご
活躍されることを期待しております。

最後になりますが、会報の発行にあたり、ご指導頂いた関係機
関の皆様及び寄稿・編集にご協力頂いた会員の皆様にお礼申し上
げますとともに、会員皆様の安全操業を祈念し、挨拶と致します。

新漁業士のご紹介

漁業士の認定

宮城県漁業士会事務局

令和元年六月十三日に県庁講堂において令和元年度宮城県農業者・漁業士退任者感謝状贈呈式及び認定証交付式が開催され、新たに指導漁業士二名、青年漁業士四名が認定されました。当日は五名の漁業士が出席し、副知事から直接認定証と徽章が交付されました。これからの活躍を期待いたします。

○指導漁業士（二名）

江刺 寿宏さん

（JFみやぎ石巻地区支所）

小野 真義さん

（JFみやぎ宮戸西部支所）

○青年漁業士（四名）

尾形 貴春さん

（JFみやぎ気仙沼地区支所）

高橋浩太郎さん

（JFみやぎ志津川支所）

横江 健至さん

（JFみやぎ雄勝町雄勝湾支所）

赤間 拓哉さん

（JFみやぎ松島支所）

漁業士研修等の報告

令和元年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

宮城県漁業士会

指導漁業士 小野寺芳浩

令和二年一月十五日、東北・北海道ブロック漁業士研修会が札幌市で開催され、本県から西條会長と参加させていただきました。北は北海道から南は茨城県まで六道県の漁業士が一堂に会しました。

当日は、各道県漁業士会の活動報告及び意見交換が行われました。各地から特色ある取組が報告された一方、共



新たに認定された漁業士

通する課題として、近年顕著となっている異常気象や海洋環境の変化等への対応が挙げられました。各道県において、水揚げ魚種の変動等が起きており、切実な問題となっているようです。その後は、東海大学の関教授から「漁村の挑戦―地域を支えるヒトの力―」と題して、漁村地域活性化に向けた取組に関する講演が行われました。漁村地域にある資源を有効利用し、地域活性化に取り組む事例の紹介があり、大変勉強になりました。夕方からの交流会では、北海道漁業士会の皆様から心温まる熱烈な大歓迎を受けるなど、大変有意義なものとなりました。

来年度の東北・北海道ブロック漁業士研修会は、岩手県で開催されます。



研修会の様子

第三十九回全国豊かな海づくり大会の視察

宮城県漁業士会

指導漁業士 千葉 周

令和二年の秋に宮城県で開催される「第四十回全国豊かな海づくり大会」食料王国みやぎ大会」に先立ち、先催大会となる第三十九回全国豊かな海づくり大会が令和元年九月八日、秋田県で開催され、西條会長、小野寺副会長と視察を行いました。

当日は「式典行事」に出席し、秋田県の伝統芸能や演奏のほか、天皇陛下によるお言葉や若手漁業者からの漁業や海づくりに対するメッセージ発表などがありました。また、大会に関連し



会長より活動報告



視察の様子

たステージイベントやパネル展示など、誰もが参加できるイベントも県内各地で開催されており、県全体で大会を盛り上げていました。

実際に大会に参加することで秋田県の漁業や資源管理の取組はもちろん、県の特産品等についての理解も大変深まりました。また、式典行事では若手漁業者の熱意の込められた決意表明に胸を打たれ、我々、漁業士も将来にわたって豊かな海を引き継ぐために、地域の活性化、後継者の育成、魚食普及などに積極的に取り組むべきだと感じました。

今回の視察での経験を活かし、令和二年の秋に開催される宮城県大会の気運醸成に向けて協力していきたいと思っています。

豊かな海づくりフェスタへの漁業士会ブースの出演

宮城県漁業士会

指導漁業士 小野寺芳浩

令和二年九月に、本県で開催予定とされます第四十回全国豊かな海づくり大会のPRと気運醸成のため、令和元年十月十九日と二十日の二日間の日程で、豊かな海づくりフェスタが仙台市勾当台公園にて開催されました。

初日はあいにくの雨でしたが、漁業士会としてブースを出展し、「ロープワーク体験コーナー」と「漁具の展示・開口体験コーナー」を開設しました。もやい結びを中心としたロープワーク体験のほか、漁具の展示や本物の開口道具を使ったアワビ漁の疑似体験を実施いたしました。

参加した皆さんには、漁業の苦労や喜びを伝えることができたほか、「楽しかった」との感想を聞くことができました。大変良かったと思います。

おかげ様で大盛況で終わることができました。ありがとうございます。



アワビ漁の疑似体験

令和元年度東日本女性漁業士交流会

宮城県漁業士会

指導漁業士

齋藤

恭子

令和元年度の交流会は、岩手県が幹事県となり、八月二十七日と二十八日の二日間の日程で岩手県宮古市にて開催されました。

初日は、共和水産株式会社 代表取締役 鈴木良太氏を講師に迎え、「三陸の当たり前をステージに 三陸の当たり前を誇りに」といったテーマで講演が行われました。共和水産株式会社は、岩手県で水揚げされるスルメイカの加工品を作り販売する水産加工会社です。地元の印刷業やデザイン会社との異業種連携の取組や地域の課題に寄



ロープワーク体験コーナー

りそった商品づくりについてのお話を聞くことができ、非常に有意義な講演でした。

講演後は、岩手県沿岸広域振興局 宮古地域振興センター 所長 吉田真二氏より、さんさ踊りの紹介がありました。さんさ踊りの説明の後、皆で和気藹々と踊りの練習をしました。

二日目は三陸鉄道レトロ列車の乗車体験の予定でしたが、荒天により運休となったため、浄土ヶ浜と岩手県立水産科学館の視察を行いました。

交流会は各県の女性漁業士が再会し、喜びと新たな問題を分かち合える貴重な場となりました。

来年度の東日本女性漁業士交流会は青森県で開催されます。



講演の様子



他県の女性漁業士と一緒に記念撮影

支部だより

北部支部

岩手県漁業士会大船渡支部 と宮城県漁業士会北部支部 の交流会

宮城県漁業士会北部支部事務局

当支部では、令和元年九月五日に岩手県漁業士会大船渡支部との交流会を行いました。

本交流会は、両支部の情報交換と相互の親睦を深めるため、平成十一年度から、震災後の二年を除き毎年続いています。今年は、気仙沼市の「はまな

す海洋館」で開催され、参加者数は二十一名となりました。

内容は二部構成で、初めに東北区水産研究所資源環境部の横内克己さんから「三陸の沿岸水温と定置網で漁獲されるマサバの漁期予報」についてご講演いただきました。

続く第二部では、両支部副支部長が座長となり、意見交換を行いました。養殖種ごとに参加漁業士から各浜の生産状況を報告し、特に両県共通の課題であるホタテガイの地産不足についてや稚貝分散後のへい死について報告があり、有意義な意見交換の場となりました。

交流会後には懇親会が行われ、意見交換会で話しきれなかった話題について語り合うなど、互いに交流を深めました。来年度交流会は大船渡支部主催により開催予定です。



意見交換の様子

先進地視察を震災後初めて 開催しました

宮城県漁業士会北部支部事務局

令和元年九月十七日に、「理研食品株式会社 ゆりあげファクトリー」の先進地視察を実施しました。

北部支部では、近年の動向からテーマを決定し、漁業に関する最新知識・技術などを学ぶための研修会を毎年実施しています。本年度は震災前に実施していた先進地視察を震災後初めて開催しました。

今回は、北部地区の主要養殖種の一つであり、近年供給量の不足から高値で取引されている「ワカメの種苗生産技術」を主題として視察しました。「理研食品株式会社」では、ワカメ種苗生産に最適な条件を付与できる「ワカメ種苗生産装置」などの施設見学を行い、研究内容の紹介やワカメ養殖に関する意見交換を実施しました。

今回の視察により、ワカメの芽落ちが発生する環境条件と対処方法、海水温及び日照などによる影響の違いを知ることができました。今後、管内漁業士や青年部に情報提供し、ワカメ養殖の安定した生産に役立てて行きたいと思っています。また、出席した会員からは、理研食品との意見交換では、抱いていた疑問が解消できたなど有意義な研修となったとの声が挙げられました。一方で参加者全員が満足できる内容ではなかったことから、今回の反省点を活かし次年度以降も続けていきたいと思っています。



研究説明及び意見交換の様子



ワカメ種苗生産装置の見学

中部支部

六次産業化・商品開発について の先進事例の視察

宮城県漁業士会中部支部事務局

漁業士会中部支部では、六次産業化や商品開発、本県水産物の販売動向把握を主なテーマに、漁業士自らが取り組む課題に対応するため、新技術習得交流事業を実施しています。

令和元年度は、八月二十九日～三十日の二日間にわたり、漁業者自らが生産から商品開発・販売で成功を収めている先進事例の視察と、商品開発に携わったコーディネーターとの意見交換会を開催し、指導漁業士二名が参加しました。

初日は岩手県下閉伊郡山田町の「山田の牡蠣くん」本社工場の視察を行いました。「山田の牡蠣くん」では、山田湾で生産されているカキやアカザラガのオリブオイル漬けを製造しており、加工機器や加工する際の工夫、商品開発や販売時に苦労したことを伺いました。二日目は、コーディネーターとして商品開発に携わった株式会社パイロットフィッシュ五日市代表取締役との意見交換を行いました。五日市代表取締役からは、「六次産業化や商品開発に取り組む際には、消費者感覚の意見も重要だが、専門家のアドバイスを受けることをお奨めする。消費者感覚で商品や値段を決めると、差別化やブランド化が難しくなる」とのアドバイスを頂き、商品のコンセプトや値段

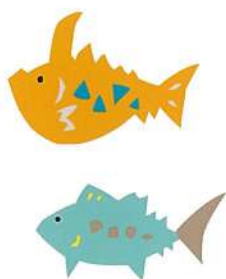
が重要であることを再認識することができました。

六次産業化で成功している生産者の方と、商品開発の段階から関わっている五日市代表取締役の率直な意見を聞くことができ、参加した漁業士二名も共通認識のもと意見交換ができた様子でした。

今回の視察研修で得られた知見を今後の六次産業化や商品開発等の取組に役立てて行きたいと思っています。



先進地視察「山田の牡蠣くん」



「山田の牡蠣くん」の商品
カキの燻製オリブオイル漬け

中部支部地区懇談会について

宮城県漁業士会中部支部事務局

震災から九年が経過し、養殖業や漁船漁業による水揚げ量は震災以前の水準に戻りつつありますが、漁業種類によつては海洋環境の変化などにより漁獲不振が続いており、地先の水産資源や低未利用資源を活用した水産物の付加価値向上、有効活用による漁家経営のさらなる安定が求められています。

そのため当支部では、平成三十年から引き続き、六次産業化や商品開発、首都圏での本県水産物の販売動向を把握するために、令和元年八月二十三日に株式会社パイロットフィッシュの五日市代表取締役を講師に迎えた懇談会を実施しました。

当日は、漁業士だけでなく、青年部や研究会、浜を支える女性部の方々にも参加いただきました。

昨年の参加者からの意見を踏まえ、「小さな力の商品開発」お客様に喜んでもらうために」と題して、漁業者が六次産業化や商品開発に取り組む際に注意が必要な「価格設定」、「パッケージのデザイン」等の基礎的な内容を中心に、実際に生産者を取り組んだ成功事例を交え、講演を頂きました。

参加者からは「具体的な商品例を挙げて説明いただいたことで、ブランディングや広報の仕方がわかりやすかった」との意見を頂きました。

来年以降も、ステップアップした内容で開催を検討してまいりたいと思います。



漁業士会中部支部地区懇談会

南部支部

子ども食堂への食材提供

宮城県漁業士会南部支部事務局

漁業士会南部支部では昨年度から、子ども食堂への水産物の食材提供を通じた魚食普及活動に取り組んでいます。今年度は仙台市、東松島市、岩沼市内にある計三方所の子ども食堂に、漁業士自慢のノリやサケ、アナゴを提供しました。提供した水産物は子ども食堂のスタッフの方々に美味しく調理してもらいました。

この取組は、子供達に宮城県産の水産物の美味しさを感じてもらうだけではなく、海の豊かさ、水産物の特徴や食卓に届けられるまでの流れ、おすめめの食べ方などを漁業者の言葉で伝える貴重な機会と捉えています。そのため、水産物を提供する漁業士には、可能な限り子ども食堂を訪問してもらい、子ども食堂の参加者に水産物の魅力を伝えていただきました。九月にアナゴを提供した際には、アナゴの生態や漁法について漁業士から説明した後に、子供達に生きたアナゴを間近で観察してもらったり、実際に触れてもらう時間を設けたところ、子供達や保護者から大変好評をいただきました。漁業士と地域住民が交流できる場として定着していけるよう、今後も漁業士会南部支部では、地域の子ども食堂との連携を進めていきます。



アナゴに触れる子ども達



アナゴについて説明

仙台うみの杜水族館でのワークショップ

宮城県漁業士会南部支部事務局

二月九日に仙台うみの杜水族館において、小学生を対象にしたワークショップ「漁師が教えます〜今が旬の宮城県のノリとカキのおいしさの秘密〜」を開催しました。仙台うみの杜水族館を会場としたワークショップは二年ぶりの開催となります。南部管内で養殖されたノリとカキを題材として取り上げ、それぞれの養殖方法についてスライドを使って説明した後に、子供達に実際にノリやカキを手にとってもらい体験学習を行いました。

ノリの部では、ノリすき体験として、細かく刻んだ生ノリを木枠に流し込む昔ながらの製法で板ノリを作ってもらった他に、焼き海苔体験として、乾ノリを加熱すると色調や香りが変化することを感知取ってもらいました。また、カキの部では、カキを安全なむき方で開けてもらった後に、カキの体の構造を観察してもらいました。参加した子供達は慣れない手つきながらも、一生懸命に取り組んでいました。

ワークショップ参加者からのアンケートでは、「カッパを着た漁業者の方と接する機会は初めてで、貴重な体験でした。楽しかったです。」や「ノリやカキが食べたくなりました。」等の感想をいただきました。今後も仙台うみの杜水族館の協力をいただきながら、水産物の魅力発信に取り組んでいきます。



カキむき体験



ノリすき体験

トピックス

「みやぎ漁師カレッジ」が 開催されました

宮城県漁業士会事務局

「みやぎ漁師カレッジ」長期研修及び短期研修が開催され、座学や漁業現場の講師として多くの漁業士の方に御協力いただきました。

本県の漁業就業数者は、高齢化や後継者不足により減少の一途を辿っており、東日本大震災によりその傾向は一層顕著となっております。本県の漁業者数は、平成三十年現在で約六千二百人となっております。減少傾向にあります。

このため、漁業の担い手となる後継者の育成、新規就業者の確保が急務となっておりますことから、県では平成二十八年より「みやぎの漁業担い手確保育成支援事業」を立ち上げ、「みやぎ漁師カレッジ」による七ヶ月の長期研修や五日間の短期研修を実施しています。

令和元年六月三日から始まった「みやぎ漁師カレッジ長期研修」では、県内外から新規漁業就業希望者五名、漁業後継者三名の計八名が集まり、宮城の水産業の概要、漁業関係諸制度、ロープワーク等の座学、ノリ・カキ・ワカメ・ギンザケ・ホヤ・ホタテ養殖、定置網等の現場研修を行いました。

また、研修の中で、漁師になるために必要な一級小型船舶操縦士、第二級海上特殊無線技士、フォークリフトな

どの資格を取得しました。長期研修は令和元年十二月二十日に無事修了式を迎えることができました。新規漁業就業希望者のうち、五名は現在気仙沼市のホタテ・ホヤ・ワカメ養殖業、石巻市の刺網漁業、亘理町の刺網漁業等に就業しております。



定置網研修の様子



みやぎ漁師カレッジ閉講式

「みやぎ漁師カレッジ」長期研修 閉講式

令和元年八月五日から九日に開催された「みやぎ漁師カレッジ第一回短期研修」では、県内外から三名が集まり、ホタテガイ養殖、刺網、定置網の網起こし等を体験しました。

令和元年十月二十一日から二十五日に開催された「みやぎ漁師カレッジ第二回短期研修」では、県内外から四名が集まり、カキ養殖、刺網、定置網等を体験しました。

県では次年度以降も「みやぎ漁師カレッジ」長期研修及び短期研修を行う予定です。



ロープワークを学ぶ短期研修生

「みやぎ漁師カレッジ」にご協力いただいた漁業士の方々をご紹介します。(順不同)

○「長期研修」

小野寺芳浩 指導漁業士
鈴木 公義 指導漁業士
千葉 周 指導漁業士
高泉 元幸 青年漁業士

漁業士以外にも漁業士OB、漁業関係者、漁協関係者、水産業普及指導員など、多くの方々に協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、来年度の漁師カレッジにご協力いただける漁業士の方がいましたら、漁業士会事務局にご連絡下さい。

「2019漁業就業支援フェア in仙台」が開催されました

宮城県漁業士会事務局

宮城県と公益財団法人宮城県水産振興協会が主催する「2019漁業就業支援フェアin仙台」が、令和元年八月三十一日に仙台市にあるイベントホール松栄で開催されました。

このフェアは、新規就業について直接相談できる場を提供し、「漁業就業希望者」と「若い担い手を確保・育成したい漁業者」のマッチングを図るため、平成二十九年度に県が初めて開催したものです。当日は、八十四名の来場者があり、十七団体（県漁協、北部船主協会等）がブースを設け、漁業就

業希望者に海の仕事の魅力を伝え、活発な質疑に答えていました。漁業士では、菊地幹彦指導漁業士が参加しました。

来年度以降も同フェアを開催予定ですので、担い手を確保したい漁業士の方がいましたら、漁業士会事務局にご連絡ください。



出展団体ブースの様子

青年漁業士養成講座について

宮城県漁業士会事務局

宮城県が主催する「青年漁業士養成講座」が令和元年八月二十一日・二十二日に宮城県水産技術総合センターで開催されました。

受講者は八名となり、最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会会長

からの基調講演等の講義を熱心に受講していました。

本講座を受講された方には、宮城県指導漁業士又は青年漁業士の認定資格が与えられます。認定後のご活躍を期待しています。

○受講者の方々

後藤 伸弥さん(ＪＦみやぎ志津川支所)
佐々木 優太さん(ＪＦみやぎ志津川支所)
三浦 正幸さん(ＪＦみやぎ志津川支所)
青山 喜信さん(ＪＦみやぎ北上町十三浜支所)
相澤 充さん(ＪＦみやぎ石巻湾支所)
横山 正俊さん(ＪＦみやぎ石巻湾支所)
阿部 行雄さん(ＪＦみやぎ松島支所)
佐藤慎太郎さん(ＪＦみやぎ仙台支所)



西條会長と受講生の方々



青年漁業士養成講座の様子

第十八回宮城県青年・女性漁業者交流大会の開催について

宮城県漁業士会事務局

令和元年八月八日に石巻市河北総合センター(ビッグバン)を会場として、第十八回宮城県青年・女性漁業者交流大会が開催され、青年三団体、女性グループ三団体の計六団体から日ごろの活動実績が報告されました。
大会当日は、西條会長が来賓及び審査員として出席しています。

①松島湾内におけるカキ延縄式養殖施設導入試験

漁場変化に対応した養殖施設の検討

ＪＦみやぎ松島支所青年研究会

阿部 行雄

②「七に三たし五に五たすの十の精神」私たちにできること

協同組合の原点に立ち返り

ＪＦみやぎ気仙沼地区支所

松岩女性部

畠山のり子

小松 隆子

③渡波アカガイ資源の復活を目指して

アカガイ中間育成管理の再構築

渡波漁船漁業協同組合

渡波赤貝漁業部

杉山 昭博

④げんちゃんハウスで「宮戸の味」を復活

浜の味を提供しながら、おいしい食べ方を伝えたい

ＪＦみやぎ宮戸西部支所

尾形 静子

(宮城県漁業士会ＯＢ)

⑤次世代に繋げるワカメの「わ」

小学校の養殖体験学習で伝える

気仙沼の自然と伝統

ＪＦみやぎ気仙沼地区支所

青年部千尋会

尾形 拓弥

⑥地域再生とともに歩む女性部

ＪＦみやぎ石巻湾支所女性部

丹野 恵子



交流大会の様子

水産物の付加価値向上や漁業技術の改善・改良に関する取組など、いずれの発表も素晴らしいものでしたが、審査の結果、JFみやぎ気仙沼地区支所青年部千尋会及びJFみやぎ石巻湾支所女性部が最優秀賞を受賞しました。

令和元年度（第五十八回） 農林水産祭における 天皇杯の受賞について

昨年度開催された第二十四回全国青年・女性漁業者交流大会で、農林水産大臣賞を受賞したJFみやぎ志津川支所戸倉出張所カキ部会が、令和元年度農林水産祭において最高位となる天皇杯を受賞しました。

震災を機に漁場改革として養殖施設

数を三分の一以下まで減らすことで、カキの品質改善や労働時間の短縮など生産性の向上を実現し、後継者が安心して就業できる持続可能な養殖業を行える環境づくりに取り組みました。養殖施設数の削減という減収にもなりうるリスクを乗り越え、経営改善と後継者確保に繋げた成果が高く評価されました。

本当におめでとうございます。

また、漁業士会を始め水産関係者の皆様におかれましては、是非この取組を参考にしていただければと思います。



農林水産祭式典 受賞後

漁業士参加行事

宮城県漁業士会では令和元年度に以下の行事に参加・協力をいたしました。

漁業士認定検討会

宮城県が実施する漁業士を認定するための検討会。会長が検討委員として対応しました。

宮城県漁業協同組合青年部総会

来賓として会長が出席しました。

水産青年フォーラム

この催しは宮城県漁業協同組合青年部が主催するグループ討議の場であり、七名の漁業士を助言者として派遣した他、会長が来賓として出席しました。

農山漁村パートナーシップ 推進宮城県大会

この催しは農山漁村の男女共同参画の推進について意識啓発を図り、女性はその能力を発揮できる社会の実現を目指すことを目的とした大会です。宮城県漁業士会として大会の後援を行うとともに、会長が来賓として参加しました。

大会には、約四百名が集まり、農山漁村女性の活動発表や農村に移住した女性の基調講演等が行われ、盛会となりました。



第四十回全国豊かな海づくり大会の開催について

令和二年九月二十七日に「第四十回全国豊かな海づくり大会」食料王国みやぎ大会」を石巻魚市場及び石巻漁港で開催します。

この大会は、天皇皇后両陛下の御臨席が慣例となっており、魚食国である日本人の食卓に、安全で美味しい水産物を届けるために、水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民に訴えらるることに、つくり育てる漁業の推進を通じて、漁業の振興と発展を図ることを目的としています。

さらに、本大会では東日本大震災の際に全国からいただいた多くの支援への感謝の気持ちと、復興が進んだ宮城県の水産業の姿や本県自慢の「食」の魅力を全国に発信することを目的にしています。

宮城県漁業士会としても、会長が実行委員会委員の一員となっておりますので、関係者一丸となって開催準備に取り組んでまいります。



退任漁業士のお知らせ

令和元年度末までに認定期間が終了し、退任されました方は次のとおりです。

指導漁業士

○令和元年度末任期満了

畠山 政則さん

(JFみやぎ唐桑支所)

阿部 悟さん

(JFみやぎ石巻市東部支所)

小野 仙一さん

(JFみやぎ宮戸西部支所)

山内 良裕さん

(JFみやぎ宮戸西部支所)

これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。

熊本県漁業士会様による令和元年東日本台風(台風十九号)被災に対するご支援

令和元年十月に東日本に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風の被災地支援として熊本県漁業士会様より、お見舞いをいただきました。

この場を借りて御礼させていただきますとともに、いただいたお見舞いにつきましては、漁業士会活動を通じて地域の活性化のために活用させていただきますことをご報告いたします。

『みやぎ水産の日』×

宮城県漁業士会

平成二十六年十月から宮城県により、県産水産物の消費拡大を図る取組の一環として、毎月第三水曜日を「みやぎ水産の日」と制定し、県漁協、市場関係や販売店等と連携して、水産物の魅力を発信する取組をスタートしています。

これに併せ、宮城県漁業士会としても各支部で「みやぎ水産の日」にあわせた販売会などの取組を行っています。

今後とも宮城県漁業士は「みやぎ水産の日」と連携した取組を展開していきます。



宮城県漁業士会ロゴマークが二種類になりました

宮城県漁業士会では、漁業士の認知度向上(P.R.)と漁業士が生産した商品の付加価値向上を目的として、ロゴマークを作成し、その活用を推進しています。

これまでは、浜のリーダーが育てた美味しいものというキャッチフレーズを採用したロゴマークとしていましたが、「漁船漁業で水揚げした商品パッケージにもロゴマークを貼りたい」との声を受け、新たなキャッチフレーズ「浜のリーダー自慢の美味しいもの」を採用したデザインを追加し、どちらのデザインもご利用いただけるようにしています。

宮城県漁業士会の認知度向上を目的とした取組(名刺、封筒、ホームページ、店舗の入口への掲示等)、商品パッケージへの使用、及び商品の販売促進等で幅広くご利用いただければと思います。使用規程や申請書、ロゴマークの電子データは宮城県水産林政部水産業振興課のホームページ(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suishin/>)に掲載されており、詳しくは県漁業士会事務局又は所属の支部事務局にお問い合わせください。

<追加デザイン>



浜のリーダー
自慢の美味しいもの



浜のリーダーが
育てた美味しいもの

海人 編集委員(敬称略)

北部委員 小野寺芳浩

中部委員 西條 覚(委員長)

南部委員 千葉 周

海人では、皆様からの原稿をお待ちしています。内容は自由で、四〇〇字詰め原稿用紙一枚から二枚にまとめ、漁業士会事務局までお送りください。